

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 三宅
日 時	平成28年7月26日(火曜日)		開 議 午前 10 時 00 分 閉 議 午前 11 時 50 分
出席委員	小島、並河、齊藤、菱田、藤本、明田、湊		
出席理事者	[産業観光部]内田部長、柏尾農政担当部長 [ものづくり産業課]野々村課長 [観光戦略課]松本課長心得		
出席事務局	門事務局長、三宅主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者 名	議員1名(竹田)

会 議 の 概 要

10:00

1 開議 (小島委員長あいさつ)

[事務局日程説明]

2 案件

(1) 商業活性化に係る状況把握

(商店街連盟との意見交換会)

<小島委員長>

これより、委員会の意見交換会として、亀岡市商店街連盟との意見交換を行う。

[休憩]

(亀岡市商店街連盟との意見交換(10:05~11:10))

11:13

[産業観光部入室]

(2) 「森のステーションかめおか」について(行政報告)

[説明]

- ・産業観光部長 概要説明
- ・観光戦略課長 資料に基づき説明

11:28

[質疑]

<湊委員>

国の10/10補助金を活用して様々なことに取り組み、将来的にも展望のあることを説明されたが、砥石に関しては、今の時代それほど馴染みがなく、一度見て、また観光に来ようかということには中々ならないように考える。よって、「チョロギ村」の展開次第で大きく変わるであろう。

ただし国の補助が2分の1となった時に、市の支援を行うのかと考えた場合には、市としても限界であり、実際に取り組みされる方々の体力は大丈夫なのか心配する。

取り組んではみたものの、客は入らず売り上げは伸びないという事態にならないか。また、事業費に人件費は含まれていない。本当にそのような計画で実現できるのか。一度つぶれたところに次の店が入っても中々うまくいくものではないのは承知のとおりである。立地的にも山の中であり、そうした中でどのようにしていくのか、大変不透明に感じるところである。そのあたりの考え方は。

< 観光戦略課長心得 >

管理運営をどのように進めていくのかということに関しては、将来的に自立できるようサポートを行う取り組みを京都府が行っている。その中で、昨年では旅行業者のじゃらんに入ってもらい、今年度では、コンサル関係の業者に入ってもらい、経営診断や進め方等に関して、地元の役員等と何度も計画を練り直しながら、取り組んでいる状況である。

また、当該施設については、教育研究所、地球環境子ども村が入っており、「森のステーションかめおか」の中にはそのような機能を残しながら、新たに「チョロギ村」、砥石の「匠ビレッジ」を取り入れ、幅広く複合的に施設利用するために、今年度施設整備を行っている。

その中では、地球環境子ども村のネットワーク等も活用して、子どもたちに来てもらい、環境学習、体験を広げていく。また、湯の花温泉宿泊客へのPRを行うなど、観光としては全面的に支援を行う。事業ができる限り継続され、それぞれの運営母体が自立されるよう支援していきたい。

< 湊委員 >

例えば3年間継続して、運営経費がもたない事態になった時にはどうするのか。

< 産業観光部長 >

地域に密着したチョロギ村の体制をしっかりとサポートしていく。また、集客力のある「ムラタの森」を活用した戦略も練っていただいている。

< 湊委員 >

事業がもたない事態になった時に、市としてどのような対応をするのかという質疑である。

< 産業観光部長 >

そうならないようにしっかりと支援していきたい。

< 齊藤委員 >

1週間のうちの土日だけの実施では大赤字となるであろう。当初、10分の10の加速化交付金であるので取り組もうという市の考え方で、次に2分の1補助となってもやっていこうという考え方はおかしい。2分の1補助であれば取り組まないというのが市の姿勢であったと考える。また、チョロギ村等の取り組みは大変素晴らしいと感じているが、当該事業費には家賃が入っておらず、砥ぎ体験にしてもなぜ森の中、現場ではなく、建物の中で行うのか理解できない。

< 明田委員 >

土日開催でどの程度の来客を想定し、それに対して交通アクセスの対応はどのように考えているのか。

< 観光戦略課長心得 >

当該施設を拠点として、屋外での体験等の展開を考えていく。交通アクセスに関しては、現在のところ公共交通ではふるさとバスしかないので、特にサイン表示等で来客を図りたいと考えている。今後、JR千代川駅からのシャトルバス等も検討していきたい。土日を基本にということであるが、砥石に関しては常設展も行うので、そのあたりはPRしていきたい。また、体験事業に関してはイベントして広く行うものであり、加速化交付金を活用して今年度実施し、定着を図りたい。

< 明田委員 >

どの程度の来客を見込んで計画しているのか。

< 観光戦略課長心得 >

現在のところ、具体的な来客数は見込んでいない。今後、京都府のコーディネーターと検討していきたい。

< 齊藤委員 >

コーディネーターがいるならば、どれぐらいの来客を見込めるのか、想定しているはずである。市の施設を用いて民間の人に事業をしてもらうことに対して、これほどの費用を充てるということなので、そのあたりはしっかりとしてもらいたい。市としては、しっかりと家賃をもらって、収益をキックバックしてもらえよう考えなければならないと思うのだが、そのあたりの考え方が見えてこない。

< 観光戦略課長心得 >

施設の家賃に関しては、所管の生涯学習部において調整されている。しっかりと家賃を払ってもらい利用していただくという方向で進めていきたい。

< 菱田委員 >

温泉のボーリング、木質バイオマスに関する調査は、現状でどこまで進んでいるのか。

< 観光戦略課長心得 >

実際には、温泉のボーリング調査にはまだ入っていない。保健所との協議により、温泉、井戸それぞれの用途により許可等の取り扱いが大きく変わってくるので、それらを含めて検討しているところである。来年3月末を目途に進めていきたいと考えており、今後、宿泊施設と温泉施設について、どのような展開をしていけばいいのか、十分に検討していきたい。

ペレットに関しては、市内の間伐材等の資源を検討する中で、何が一番いいのか、現在、地元では調査研究をいただいております、同様に年度末を目途として見込んでいます。

< 菱田委員 >

本来、調査とは事業予算を組む前に実施しておくものであり、予算を付けてから調査を行うのは順番がちがうと考える。各委員から厳しい意見が出ているが、あのエリアを活用するための全体的な計画がないまま、いきなり森の京都、匠ビレッジと打ち出されたら、そのほかの部分はどうなっているのかということとなる。やはり、全体を整理した上でないと、失敗したらどうなるのか、チョロギ村はどうなるのかということとなる。まずは全体像をしっかりとつかみ、つくり上げ、その中で匠ビレッジを動かしていく、そのようにしていただきたい。要望。

< 並河副委員長 >

資料3ページ、「上下水道、清掃具用洗い場が必要」とあるが、上下水道はどのような状況か。

< 観光戦略課長心得 >

ディスカバリールームについては、以前は図書室として使っていたこともあり、給排水整備を行う必要がある。今年度、必要な整備をしていきたい。

[産業観光部退室]

3 その他

なし

散会 ~ 11:50

(散会后、決算特別委員会分科会に切り替え)